

株式会社 京都銀行

京都市下京区烏丸通松原上る
郵便番号600-8652

地域金融機関で初めて

海外送金サービス「^{ス イ フ ト} ^{ジ ー ビ ー ア イ} SWIFT *gpi*」に参加します

京都銀行（頭取 土井 伸宏）は、国際銀行間通信協会（以下、^{ス イ フ ト} SWIFT）が提供する海外送金サービス「^{ジ ー ビ ー ア イ} *gpi* (global payments innovation)」に参加しますのでお知らせいたします。

SWIFTは、世界中の銀行の海外送金や決済を標準化するプラットフォームを提供している組織です。「*gpi*」は、2017年にサービスを開始して以降、世界の520行以上の銀行で稼働している海外送金サービスで、日本の地域金融機関の参加は当行が初めてです。今後、本サービスを導入することによりシステム上でタイムリーな資金の追跡が可能となり、手続き状況や手数料等の“見える化”による海外送金の透明性の向上が期待できます。

当行では、今後も、時代の潮流に即した金融サービスを提供に向け、体制の整備に取り組んでまいります。

記

1. 「^{ス イ フ ト} ^{ジ ー ビ ー ア イ} SWIFT *gpi*」について

国際取引の情報インフラを担うSWIFTが2017年1月に開始したサービス。海外送金におけるお客さまの満足度を、“スピード”と“透明性”の観点から大幅に向上させることを目指しています。

(1) 送金情報の「見える化」

システム上での資金の追跡で、送金状況（いつ、どのようなルートで送られたか）や手数料情報が即時に把握できるようになります。

(2) 企業の貿易関連業務の効率化をサポート

企業が「*gpi*」に参加する銀行を利用して海外送金した場合、「*gpi*」のシステムにAPI*接続することで、企業はタイムリーな資金決済情報を入手することができます。これにより「モノ」と「カネ」の流れが把握でき、貿易関連業務の効率化が期待できます。

※API…Application Programming Interfaceの略で、外部からシステムに接続して安全に情報を取得できるようにするための仕様や仕組み。

2. 「国際銀行間通信協会（SWIFT）」について

200を超える国と地域における11,000以上の金融機関等が参加する協同組合。世界中の銀行間の国際決済を支える通信プラットフォーム等を提供している。

3. 今後のスケジュール

「*gpi*」の導入と利用開始に向けて、今後SWIFTが定める各種手順を進める予定です。

以上